

平成30年度 経営改善計画ヒアリング 計画・取組状況とヒアリング時の特記事項 <募集定員の確保・知名度向上>

今後の計画（3年間）	30年度の具体的取り組み・タイムスケジュール	ヒアリング時の特記
<p><入試課> 【戦略的な募集の展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆常に次のことを意識する。 <ul style="list-style-type: none"> ・高校の進路指導スケジュールに合わせたタイムリーな高校訪問及び情報提供を行う。 ・すべての活動は、相手を意識して自己都合を優先することなく、高校生・高校教諭・在学生の立場になって考える。 ・高校との信頼関係を構築・維持するためには、受け入れた学生を育てることに全力を尽くすこと。仮に中途退学となった場合にも高校に指導の経緯が報告できるようにする。 ◆高校生、高校教諭及び保護者の情報入手行動を意識した募集活動を展開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・進学情報誌及びインターネットによる情報発信 ・訪問目的を意識した高校訪問 ・受験生へのダイレクトメール ・マスメディア、交通広告等によるイベント告知など実施 	<p><入試課></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆専門高校、総合学科などの推薦・AO入試を主に利用する高校は6・7月中、遅くとも8月中旬に訪問する。全員がセンター試験を受験し国公立大学を目指す高校は9・10月を目途に高校訪問を実施する。 ◆地方の私大の場合は国公立大学との併願が多く、国公立大学の志願倍率など外的な要因の影響を大きく受けてしまう。一方的な営業ではなくお互いに信頼関係を築く地道な教育・広報が最も重要である。受け入れた学生が「長崎総合科学大学に入学して良かった」と感じ、高校からは「長崎総合科学大学なら安心して生徒を託せられる」と評価してもらえるような関係作りに注力する。 ◆そのために学生を教育する教員はもちろん、職員全員が日々の業務の中で意識して学生のことを第一に考えることが重要。先生方が在学生のために活動できる時間をより多くとれるようにして、通常の高校訪問は職員中心に実施する。 ◆情報誌は1月、WEBは4月、告知広告及びDMはタイミングをみて適時実施する。進学説明会の対象 4・6・7月は3年生、11月以降は翌年度新3年生となる2年生が中心となる。 	<p><入試課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学に来れば複合的に学べる ・「ものづくり」を打ち出してアピール ・OCは元気があって、賑やかな工夫をする ・OC第1回目は県内が少なかった ・野球の決勝戦、長大との同時開催 ・特待生制度の見直し（先生方からの厳しい意見） ・特待生制度を4年間から2年間を検討 ・募集にどう影響するか ・2年にする場合、在学生のモチベーションを上げる効果 ・学生一人一人に寄り添った教育 ・カリキュラムにおける文系、農業高校からの受入れ問題ない。まだまだ知られていない
<p>【本学の教育実績の数値化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆本学の教育成果及び学生満足度の数値化を検討・実施する（入試課の本来の業務と少し違うと思うが、大学として取り組まなければならないことと思うのであえて記載した） 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本学で取得可能な資格と取得状況調査。 ◆継続性のある学生満足度を計る方法について関係部局と意見交換し、早期の実現を目指したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業してからの追跡（情報提供） ・4年生の卒業時に「どうだったか」本当の意見
<p>【女子学生の入学者増】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆男子寮はあるが女子寮がないため、平成29年度入学生から女子学生への経済的支援として家賃補助制度を導入した。 ◆理系大学に進学する女子学生は増加しているようであるが「工学」を希望する女子学生はまだまだ少ない。 ◆本学での学びが女性にとっても魅力的であるところをアピールする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本学は男子校的なイメージが根強い感があり、まとまった数の女子学生の入学者増のためには、女性の将来にとって有益で魅力的と感じるような明確な学びの内容が提示できないと厳しい。 ◆現在本学には6月末現在で93名の女子学生がいるが工学部は68名（建築24名、医療36名）、総合情報学部は25名（知能7名、マネジメント8名、生命10名）といった状況である。 ◆総合情報学部に限ったことではないが、本学でも女子学生が自分の将来を見つめて頑張っているところをHP等で情報発信していく必要がある。まずホームページで公開できるよう企画広報班と一緒に検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2割いっていない ・本学のイメージを払拭していく
<p>【留学生の受入れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆別科日本語研修課程からの入学者確保。国内の日本語学校からの入学者増を目指して活動する。 ◆日本語学校訪問及び校内ガイダンスへの参加を中心に活動する。 ◆工学部は文系学部 비해学費が高く、本学の私費留学生学費減免で授業料の40%を免除しても経済的負担が大きい為、興味を示す留学生は多いものの出願に繋がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆別科の学生が増えたことに起因することと考えるが、2016年度：7名、2017年度：2名、2018年度：7名）と入学者は増えたが、留学生入試の受験者数が伸びない。 ◆日本語学校への資料送付、長崎留学生センター主催の日本語学校内説明会及び長崎県内の日本語学校の生徒を集めての学校説明会に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活水はH30移行。トラブルなし 国立大学も完全移行
<p>【インターネット出願の導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成29年度入学者から実施済み。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国公立大学の多くがインターネット出願のみとなったことから、私学でも急速に100%インターネット出願に向けて動きが加速することが予想される。 ◆県内私学では活水女子大学が平成30年度入試から100%インターネット出願に切り替えた。本学も受験生・高校現場の状況を踏まえてタイミングを計りながら、平成32年度入試の100%インターネット出願を検討する。 	
<p>【入試制度の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2020年度入試から現行の大学入試センター試験に替わって実施される大学入学共通テストの内容がほぼ明らかになった。 ◆本学のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーに基づく入試制度を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆文部科学省が打ち出している、入試における学力の3要素の評価、英語の4技能を評価するために外部試験の活用など、入試改革（高大接続）の大きな変革が目の前に迫ってきている。入学対策専門委員会で検討し平成30年12月末までに原案を作成し、2月末には公表する。 	

<p><留学生委員会・学務政策課></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今後増大が予想される留学生に対して、安全安心の生活提案と異文化理解に伴う満足度向上を目的とした各種取り組みを実施する。 ◆留学生のみならず、本学にとって重要な「安心安全」への事前の危機管理対応の検討を進める。 ◆本学学生や附属高校生とのふれあいの場を設け双方の視野の広がりを狙うとともに、留学生の満足度を向上させる。 ◆上記の活動成果を用いた効果的な広報に基づく本学ブランド価値の向上を狙う。 	<p><留学生委員会・学務政策課></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆留学生満足度向上WGを設置し、具体的実施内容を定める予定（後期開始）。 ◆平成30年度は、大勢の留学生の来学に伴って派生する不慮のリスクを最小限にする「危機管理対応」の考え方を整理する。 ◆危機発生時の具体的対応方法を事例を用いてマニュアル化する予定である。 	<p><留学生委員会・学務政策課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生の授業料 全体的な検討
<p>コース等の取組</p>		
<p><大学院></p> <p>1) 募集対策の現状 この項目は、基本1.との関連が大きい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部進学については、大学院教員の努力にまつしかない ・留学生については、現在中国の3大学と協定を結んでおり、計画通りならば、各校からそれぞれ2名程度の修士の学生が期待できる（来年度以降）。 ・社会人学生の増加については、来年度以降に対策を取る。 <p>2) 今後の対応</p> <p>1. とあわせて、専攻主任会を開いて議論を行う予定（博士課程の応募者の資格審査とあわせて、7月30日の週を予定している）。田中の個人的見解としては、高校生の数が減る中では、留学生と社会人の増加が本学にとって必須であり、社会人の受入については、大学院が良いのではないかと考えているのでその方策を中心に議論する。</p>	<p><大学院></p> <p>1) 今年度（'18.10、'19.4 入学者）の募集状況 博士課程確定1名、応募1名 修士課程応募1名（以上'18.10入学） '19.4入学については、既に修士課程の特待生12名を選定しており、これに加えて特待生以外の入学者も5名程度を期待している。</p> <p>2) 今後の対応 文科省への届出はなるべく軽易なもので済ませたいと考えており、その方向で検討していく。 医療工学の川添先生からも、専攻の分け方について提案があるので、左に示した主任会での検討の中で議論する。 建築の先生をすべて環境計画学専攻に配置することは、後任人事にもよるが、構造力学の先生を環境計画学専攻に配置すれば、特に変更しなくても可能である。</p>	<p><大学院></p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築の学生の受け皿 ・社会人（現職）の修士への受入れてで単位を取らせることに苦労。科目数を減らす ・内部（学部進学）、留学生、社会人の三本柱で増 ・生産技術学専攻の名称が悪い ・認可、届け出の確認 ・授業の英語化で英語圏から受入れ ・生活指導の面も対応が必要 ・定員はアンバランス
<p><船舶></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆定員30名の内訳として、遠隔地10名（船好き）、九州等近場15名（ここが問題！）、附属高校5名を目標とする。 なお、近年の入学者は下記の通りである。 1年生：20 2年生：18（内、休学2） 3年生：34+2（編）-3（退） 4年生：23+1（編）-1（退） 留年生：4 → 充足率 = 98/120 = 81.7% ◆そのために、高校訪問、DM、HPの充実、附属高校との総合学習の時間を通して、船舶の魅力をアピールすること等、地道な努力を重ねる。 ◆高専（弓削商船高専など）からの、編入を続ける。 ◆船舶工学の力学的基盤“3S（Speed(速力), Stability(安定), Strength(強度))”の教育を、臆することなく前面に掲げることにより、一般入試やセンター試験で志望してくる進学高の学生に、学問的な魅力をアピールする。 この基盤3Sを応用することで、海洋開発や再生エネルギーの分野への進出も、可能である！ <p>[知名度向上]</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆船舶HPのニュースを、常に更新し、情報発信する。 ◆春の「長崎帆船まつり」への参加や、夏の「夏休み・おもしろ船教室」を実施し、コースを宣伝する。 ◆造船技術者に対する経験者研修を行う。 ◆昨年度、研究論文の公表が、当コースで計4篇（航海学会誌に2篇、船舶海洋工学会・講演論文集に1篇、センシングフォーラムに1篇）であったので、業務に忙殺されることなく、地に足を付けて、研究成果を学会に公表する意識を持つ。 	<p><船舶></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆在校生の母校に、在校生の名前の入った暑中見舞い状に、船舶ニュースを同封した封書を送る。 ◆定期的、最低1ヶ月に1回は「船舶ニュース」を発行し、オープン・キャンパスや見学者に配布しているが、このバックナンバーを、船舶のコースHPに掲載するなどして、学外にアピールする。 ◆船舶のコースHPをリニューアルすると共に、HPに船舶のイベント等のニュースを、定期的に掲載する。 ◆水槽のHPも、実験例をPRするなどして、アトラクティブなものにリフレッシュする。また、水槽そのものも、ショールームとして活用する。 ◆船舶教員の研究室紹介のHPも、各自が更新する。 ◆オープンキャンパスで、船舶工学コースの紹介時間を確保し、船舶工学の学問領域や海洋開発・再生エネルギー分野への応用について、学生にアピールする。 ◆NiASセミナーや体験学習を実施する。 ◆学年担当が学生支援センター等の支援を受けて退学防止に努める。しかし、一旦退学意思を持った学生の指導は、難しい。 ◆県内の高校からの入学者数の増加を目指して、厳しいかも知れないが、改めて実施する必要がある。 ◆船舶コース主席の学生を、三菱重工・長崎造船所に就職させる道を、拓けないか？ <p>◆各種イベントには積極的に参加し、知名度を上げていく。ただし、各教員の負担が増えていくので、この点を考慮しつつ実施していく。</p> <p>◆最近、新しい教員も2名加わり、積極的に研究されているようなので、その成果を論文にして、学会に公表する。特に、1年に1篇は、船舶の教員から、船舶海洋工学会論文集に、公表できるように、コースとして頑張りたい。</p>	<p><船舶></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内が少ない。三菱、SSKでイメージが悪い ・瀬戸内海は良い ・「船・海が好き」は全国から来る ・大手にこだわるのではなく、中小拾い上げて紹介 ・船舶ニュース、暑中見舞いはポディブロー ・おもしろ船教室普及活動や県、市のイベント参加 ・戦略、従来のやり方（4分の3）、普通科進学校から学問的（波形解析）興味の手法（4分の1）の2段階 ・OCのコース紹介の時間が短く押し込み状態 ・
<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆毎年、入学後の高校名と入学数を確認し、その年度にあった趣向を凝らした高校訪問を実施し、その対策効果を検証する活動を行う。工業高校（けいほ、佐世保実業ほか）の先生と連携し、AO入試の受験数確保に努める。 ◆機械のHPを随時更新し、高校生や親に興味をもってもらう活動をする。 ◆中途退学を減らし、かつ父母に安心してもらうため、出口の就職先で上場している大手企業もしくは地元の優良企業へ在学学生を就職させる。 ◆父母懇親会で来校した父母へ子弟の大学生活の状況を把握してもらうため、パンフレッ 	<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆H30年度は、コース長の案（工業高校と私立高校を中心とした8高（南、南山、海星、明誠、創成館、けいほ、佐世保実業、西稜）へ訪問）の下、高校訪問を5月から開始し8月の夏休み前までの実施を予定している。 ◆機械の年間行事（入学式、フォーラム旅行、工場見学、卒業式、学会での講演）と学生の学会活動にあわせ、HP上にブログ形式で内容のアップデートを随時行っている。 ◆カネミツ、名村造船、協和機電工業、各学部生1名内々定。 	<p><機械></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎工業高校はあまり期待できない ・瓊浦高校の機械科の科長へ訪問 ・他校は在学学生に担任を紹介してもらい訪問 ・入試課は全コースを紹介するため、単独での訪問紹介が必要 ・AO入試と附属高校で確保。ただし、AOは学力が低く、あまり入れたくない

<p>トを作成し配布する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆在学中に学会活動に興味をもってもらいまた参加させることで、大学院への進学を促す活動をする。 ◆市内で行われる科学イベントや電動バイクの大会へ参加し、機械コースの紹介に努め、高校生に機械工学に興味をもってもらう活動を行う。 <p>【知名度向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆NHK ロボコン、科学イベント、電動モビリティコンテスト、機械関連学会コンテスト（スターリングエンジン、設計技術自動車の安全等）へ参加する。 ◆NiAS セミナーや進路ガイダンスによる研究とコースの紹介、体験学習による科学実習の実現。 ◆HP の内容更新。 ◆大学へ来校する企業訪問者、大学関係者や高校生のために、研究室を紹介するポスターを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆大学院への進学は、3名を予定。 ◆機械工学通信（近況報告）を父母懇親会の開催時期に合わせて、6月（配布済み）と9月に発行する。 ◆8/21 にスマコマながさき活動の一環として、当学で高校生と大学生との交流会を開催する。県内の工業高校等から参加予定（平子）。 ◆10/20, 21 の第22回青少年のための科学の祭典（長崎市、黒田）へ参加、11/8 の第5回電動モビリティコンテスト（長崎市、平子）へ参加を予定。 ◆8/21 にスマコマながさき活動の一環として、当学で高校生と大学生との交流会を開催する。県内の工業高校等から参加予定（平子） ◆10/20, 21 の第22回青少年のための科学の祭典（長崎市、黒田）へ参加、11/9 の第5回電動モビリティコンテスト（長崎市、平子）へ参加を予定。 ◆入学式、九州電力による講義、フォーラム研修旅行の内容を行事の後すぐにアップデートした。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆県立高校は大学センター試験の結果のため不確定 ◆産業界との接続、他の分野との融合 																												
<p><建築> （平成30年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度入学者増の要因を分析 ◆平成29年度活動の評価と改善 <p>（平成31年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成31年度入学者増の要因を分析 ◆平成30年度活動の評価と改善 <p>（平成32年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成32年度入学者増の要因を分析 ◆平成31年度活動の評価と改善 	<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度入学者増の要因を分析（4月） ・「地元の大学」「建築士の資格取得」等と共に、「建築に関心があった」は他大学も同様な傾向があり、建築に対する関心の高まりを確認 ◆建築学コースのコースHPの改善（6月） ・建築学コースをより魅力的に発信するためにコースHPを全面的にリニューアル ◆オープンキャンパスで建築を学ぶ面白さを紹介（7月～9月） ・学生プレゼンによる海外研修、設計コンペ、教会等の模型作品、製図作品の紹介 ◆小中学生に対する「ものづくり建築体験」の実施（8月11日） ・他コースと連携して、より低い年代から「ものづくりの楽しさ」を体験 ◆設計アイデアコンテストの実施（6月～10月） ・21回目を迎え、全国的にも注目されている本コンテストで高校生による多くの作品を募集 ◆建設技術フェアへの出展（11月1、2日） ・建築系企業人の他、工業高校の学生や教員に対する建築学コースの紹介 	<p><建築></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の教授がいる存在。女子学生の引込み ・中小の大学で建築は定員超。建築ブーム？ ・「ものづくり体験」やっている効果 																												
<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆入学者数の低迷（定員割れ）が緊急課題である。本年度実績は25人定員中15名。 <p>主な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コース独自で高校訪問 ・進路ガイダンスも可能な限り参加 ・NiAS セミナーにもより多くテーマアップ 	<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆本年度も引き続き実行する。 ◆本年度も引き続き実行する。 ◆本年度も引き続き実行する。 	<p><電気></p> <ul style="list-style-type: none"> ・強電、弱電、通信の資格がとれるアピール ・先生がたのラインナップを外へ発信 ・学費減免 																												
<p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆2007年に設立された本コースは、今年で12年目となる。当初は入学者数25名で始まったが、この数年間は毎年40名前後（定員30名）で、全学年学生数140名以上を維持している。この状況は、1)医療には不景気が無く、2)医療機器の進歩に人が追いつけず、医療事故が増加している時代の流れに因り、臨床工学技士の需要があるものと分析している。これからの3年間の目標として、毎年40名の新入生を目標として、退学者をさらに少なくして、全学年の学生数150名以上を維持して行きたい。その目標を達成するために、従来からのオープンキャンパスや学校訪問に加えて、医療工学コースのホームページ(HP)を充実させたいと考えている。県外からの学生を集めるためには、魅力あるHPが重要と考え、H28年度より、当コースの清水教官が、医療工学コースのHPを開設した。H29年度は、iPhone用のHPも作成した。今後も、大学のHPとコースのHPを上手く活用して行きたいと考えている。 	<p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆H30年度は、1)オープンキャンパス、2)狙いを絞った学校訪問、及び、3)医療工学コースのホームページ(HP)の充実を行う予定である。具体的には、1)は、地元の学生を対象として、臨床工学技士の魅力を十二分に宣伝したい。2)は、これまで通りに、川添教官が中心となって行う。これまでの実績のある県外の高校訪問を行なって、県外の学生を引っ張ってきたい。3)は、H30年度も、より多くのアクセス数を稼ぐために、HPの内容を充実させて行きたいと考えている。現在、清水教官が担当し、当コースの紹介や、HPアクセスの分析を行っている（資料1）。 	<p><医療></p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター入試の受験が多い ・九州では佐賀以外にある。福岡、熊本に逃げる鹿児島、宮崎が減っている ・院との連携。医療、福祉が本学の院にない4+2の教育 ・アジア、中国を目指したグローバル化先ず教育者を育てる ・市内の学生減っている。就職の問題があるか ・卒業した学生からの情報もあるか ・40名来ているが安定、安心はしていない 																												
<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆（2013年までが知能情報学科、2014年以降が知能情報コース） <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2013</th> <th>2014</th> <th>2015</th> <th>2016</th> <th>2017</th> <th>2018</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>志願者</td> <td>42</td> <td>49</td> <td>62</td> <td>57</td> <td>53</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>合格者</td> <td>40</td> <td>42</td> <td>54</td> <td>52</td> <td>49</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>入学者</td> <td>28</td> <td>29</td> <td>32</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> <p>今年度は歩留まりが悪く入学者が伸びなかった。2016年度に県立大学が情報システム部を新設したが、その影響は特に見られない。長崎大学が2020年に情報系の学部を独立させる計画があり、良い学生がそちらに取られることが懸念されるが、全体としては対象となる受験生がそれほど重なるとも思えない。</p>		2013	2014	2015	2016	2017	2018	志願者	42	49	62	57	53	52	合格者	40	42	54	52	49	49	入学者	28	29	32	34	33	29	<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆①から⑥まで、基本的にはどれも並行して実施していく。 コースの教員補充が見込めない中、教育の質をどうやって確保していくか、また、この人数でどうやって学生の面倒をみていくか、コースの中で意見を出し合い、一体となって取り組んでいきたい。 昨年度より、土曜学習応援団（長崎県生涯学習課）として離島や県北などで出張ロボット教室を開いているが、今年度は既に10件を越える応募が来ていて一番の人気を集めている。対象は小中学生なので、直接的には募集に結びつかないが、参加者に楽しんでもらうこと、保護者や関係者にいい印象をもってもらうことが間接的にでも良い結果を生むとの思いで地道に取り組んでいきたい。 	<p><知能></p> <ul style="list-style-type: none"> ・県大、長大とは、ビックデータ、AI、IoT教育内容でかぶる ・データサイエンス注目されているが本当のデータを使うと費用がかかる ・介護ロボットやりたい学生がいる ・海中ロボットは他のコースとできる ・「知能情報」だが「知能」を今いる教員でどう舵をきるか ・最先端は学部ではやれない。院レベル
	2013	2014	2015	2016	2017	2018																								
志願者	42	49	62	57	53	52																								
合格者	40	42	54	52	49	49																								
入学者	28	29	32	34	33	29																								

ず、これを機に本学に情報情報コースがあるということアピールしていきたいと考えている。募集の方針は従来と変更なく次の5点とする。

- ①出張講義を通して学生に直接語りかける機会を増やす
- ②担任や進路指導とのつながりを深める
- ③HPやパンフレットを通して、コースの教育内容を具体的に示す
- ④講義や就職指導を通して、在校生の満足度を高める
- ⑤研究活動をもっとアピールし、大学の評価を上げる

NHK ロボコンやET ロボコン、トマトロボコンでの活躍はもっと直接的に志願者の増加につながっている。何人もの学生がテレビや新聞での報道を見て本学に興味を持ったと言っている。また、企業や実行委員会からの評判も上々で、実際に何人も就職に結びついている。また、長崎市科学館や浜の町アーケードでのロボット体験教室も大盛況で、今年も実施を熱望されている。

本格的なことを4年間でできるか。院との連携

<マネジメント>

◆下表に、本コース入学者数の試験別人数の直近3年間の実績を踏まえた以降3年の目標数を示す。本コースへの入学者増に対目には、そのためには、推薦での確保も必要であるが、筆記試験の志願者増が欠かせない。推薦試験においては、まず附属高校(特に、サッカー部)と別科からの入学者確保に努める。筆記試験においては、コースの教育研究活動内容と学生の活動を高校生側に伝えるためのコンテンツ作成を進める。そのことが本法人以外からの推薦入試による入学者増にもつながると考える。

年度	入学者数 (充足率)	推薦試験 {附属特推} [別科特推]	筆記試験 (入学者/志願) {一般}[センター]
2016	26(86.7%)	16{8}[2]	10/21{6/13}[3/6]
2017	12(40.0%)	8{1}[1]	4/11{4/6}[0/3]
2018	20(66.7%)	14{3}[3]	6/8{2/2}[4/7]
2019	25(83.3%)	15{4}[4]	10{6/10}[4/10]
2020	30(100.0%)	17{5}[4]	13{8/12}[5/15]
2021	33(110.0%)	18{5}[5]	15{9/15}[6/18]

<マネジメント>

◆2019年度の入学者目標：25名(推薦試験15名、筆記試験10名)。推薦15名では附属特推4名、別科特推4名を、筆記試験では一般入試6名、センター試験利用4名を想定している。

◆今年度の本コースでの募集活動の状況/予定は以下の通り。

6/12： 附属高校進路ガイダンス
ブース来場者数11名(第1回2名、第2回9名)

7/11： 附属高校向けオープンキャンパス
コース展示来場者19名

7/23,8/20,9/16： オープンキャンパス
(学生の学びを中心に紹介)

<マネジメント>

- ・ 何をやっているのか浸透していない
- ・ 外に向かって、特色を打ち出せていない
- ・ タワーチャレンジ。雑学の中でマネジメント。動画を見せて説明
- ・ 他大学「データサイエンス」注目されている。文理融合。世の中の流れに一番対応できるコース
- ・ 世の中に要求されること
- ・ 具体的なイメージを伝えていく。こんな先生がいて、こんな研究をしているので一緒にやろう
- ・ マネジメントの名称はこれから必要な看板なのか

◆下表は、直近7年間の本コース(H25までは旧経営情報学科)入学者数の試験別人数の実績である。この表より、本コースは推薦試験による(特に、本法人からの)入学者に支えられており、筆記試験による入学者が少ないことが分かる。また、表にはないが、筆記試験においては、志願者の殆どが合格しているにもかかわらず、入学に至っていない現実もある。合格率が高い事はこれ自体問題でもあるが、入学した学生に「経営系」学科を志望していた学生も少なくなかった事から、それらとの差別化(魅力化)ができていない現状も伺える。

年度	入学者数 (充足率)	推薦試験 {附属特推} [別科特推]	筆記試験 (入学者/志願) {一般}[センター]
H24	13(43.3%)	11{3}[2]	2/9{0/4}[2/5]
H25	21(70.0%)	19{6}[2]	2/18{1/11}[1/6]
H26	16(53.3%)	8{2}[0]	8/13{3/4}[5/9]
H27	12(40.0%)	8{2}[1]	4/5{2/3}[2/2]
H28	26(86.7%)	16{8}[2]	10/21{6/13}[3/6]
H29	12(40.0%)	8{1}[1]	4/11{4/6}[0/3]
H30	20(66.7%)	14{3}[3]	6/8{2/2}[4/7]

◆これまでの募集活動においては、高校訪問を担当する入試アドバイザーに対してさえ、本コースの魅力やコースの特徴を十分に伝えられていなかったという反省がある。これは、経営工学の具体的な活用シーンをイメージさせるような教育研究活動が不足していたことが大きな原因であると思われる。

◆右表は今後3年の本コース入学者の試験別人数の目標である。今後の募集活動においては、以下の点を重視する。

- (1) 短期的には、附属高(特に、サッカー部)からの入学者増を図る。
- (2) 留学生に対して、日本人学生との交流機会や補習環境を整える。
- (3) 本コースの紹介、授業、学生の活動の動画を作成して、ホームページやYouTubeにアップする。
- (4) 本コースのホームページを改善する。

年度	入学者数 (充足率)	推薦試験 {附属特推} [別科特推]	筆記試験 (入学者/志願) {一般}[センター]
H31	25(83.3%)	15{4}[4]	10{6/10}[4/10]
H32	30(100.0%)	17{5}[4]	13{8/12}[5/15]
H33	33(110.0%)	18{5}[5]	15{9/15}[6/18]

(1)においては、小嶺教授や附属高サッカー部出身の学生がリーダーの資質に関するデータの収集と解析に関心を抱いていることと、サッカー部をやめた学生も資格取得等に挑戦していることなどから、高校生に具体的なイメージを持たせることができる。

(2)は、今後増加が見込める別科からの進学者を受け入れるために、留学生の不安を少しでも軽減させるために実施する。

(3)は、言葉や静的な情報源に依存したコース紹介から、実際の教育研究活動の動画に説明を付け加えたコース紹介に変えて、そのコンテンツをインターネットで閲覧できるようにするとともに、入試アドバイザーの高校訪問でも活用してもらう。これは、筆記試験での志願者増にもつながると考える。

(4)は、従来からの懸案事項でもあり、これまでの管理体制の変更と作業の軽減化を

本格的なことを4年間でできるか。院との連携

<p>[知名度向上]</p> <p>◆広報・宣伝活動 高校の先生や生徒だけでなく、入試アドバイザーにさえ「マネジメント工学コース」のイメージがあまり伝わっていない、という現状に立って、今後はコースの存在意義を含めてコース内での教育研究活動や学生の活動を、高校生だけでなく地域の人たちにも伝えるべく努める。 今後3年間で重視する広報・宣伝活動は以下の通り。 (1) 小中学生向け体験教室を開催し、小中学校の教員と連携する。 (2) コース内での学びや『マネジメントとはどういうものか』を説明する動画を作成する。 (3) コースのホームページを改善する。</p> <p>(1)は、地域の人たちへの広報・宣伝活動であり、体験教室は今年度8/11(山の日)に開催する。小中学校の教員との連携は今年度後半より検討に入る。 (2)は、特に高校の先生や高校生向けに用意する。これまでの印刷物を中心とした紹介に加えて、動画を使ったコース紹介も検討する。入試アドバイザーによる高校訪問でも活用してもらい、またインターネット上で閲覧もできるようにして、本法人外からの志願者増を図る。 (3)は、従来からの懸案事項でもあり、昨年度は時間と人員の不足で実現できなかった。今年度以降は、大学公式サイト上の改善と歩調を合わせて、これまでの管理体制の変更と更新作業の軽減化を図る。</p>	<p>中心とする。</p> <p>◆2018年度の本コースの広報・宣伝活動の状況／予定は以下の通り。 5～6月：小中学生向け体験学習(建築+知能+マネ+生命)の内容の検討とチラシ作成。(定員150名) 6月：授業の動画素材の撮影。 7月：小中学生向け体験学習の募集開始。 7/16 現在応募数200件、253名。 7/13：「マネジメント」紹介動画(約1分)の入試課への提供。 高校訪問時での使用依頼済み。 8/11：小中学生向けものづくり体験教室「夏のものづくり体験教室2018」開催予定。 9月～：小中学校の教員との連携検討。 9月～：ホームページ及びYouTubeへのコース紹介動画のアップ。</p>	
<p><生命></p> <p>◆長崎大学が不合格で本コースに来る学生が毎年結構な割合で存在する。これらの学生をしっかりと受け入れるためには実験設備を対応可能な範囲で適切に維持・整備していく。 ◆コースの学びと就職先の関係が会社名や業務内容から結びつくような進路先を増やしていく。 ◆環境分野(分析、生産、観察)へのICTの導入による教育研究を実施していく。(営農情報・生態情報の収集・分析) ◆環境分野の特色である学生らのフィールドワークによって地域からの本学への信頼と評価につなげる。 ◆省エネルギー工学分野は就職状況が非常に良いが、学ぼうとする学生が少ない。今後の副専攻として工学部学生の参加を目指す。 ◆小中高校への環境学習への講師協力を本学への児童・生徒らの興味関心につなげていく。</p>	<p><生命></p> <p>◆県内の農業高校に対するアプローチを行い、指定校推薦による応募者増を目指す。(9月頃まで) ◆コースWebページをブログ形式として全教員が直接記事の投稿を可能にする。(7月中に対応済み) ◆コースWebページの閲覧記録の分析ツールを導入しており、よく参照されているページや訪問元情報を分析し、ページ作りに活かす。</p>	<p><生命></p> <ul style="list-style-type: none"> ・手続き率が半分。長大を落ちた学生、学力は良い ・試験入試が多い。歩留りで確保。10%上げる ・長大以外にどこに行っているか調べる ・特待生A1でも来なかった ・HPで女子学生のページを作る(理系女)
<p><教職></p> <p>[知名度向上]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の学校体験等の機会(教育実習、学校インターンシップ等)を確保するため、地域の教育委員会、福祉協議会、小・中・高・特別支援の各種学校との連携を深めていく。 2. 教員免許更新講習制度への協力を継続する。 	<p><教職></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習協力校の確保を図る。 2. 学校インターンシップの在り方について話し合う。 3. 介護体験実習に関わる実習施設・学校の確保と、事前指導の充実を図る。 4. 教員免許更新講習については、今年度受講生の大幅な増加がある。開講される講習・講座を適切に実施する。 	<p><教職></p>
<p><別科></p> <ol style="list-style-type: none"> ①中国、韓国、ベトナム、ミャンマーなどからの志願者確保および留学生の国籍の多様化を更に図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・IHパートナーズとの2019年度以降の募集業務の提携 ・ネットによる発信力の強化 ・国内外での募集活動、他部署との連携 ②別科入試選考の更なる整備 <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい学生の確保のため、書類選考からスカイプ面接を経て合格発表に至るまでの一連の流れを整備する。 ③募集活動の体制作り <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度6月に新体制となった「国際班」、「入試課」などの関係組織と協働する体制を整備する。 ④本学の更なる国際化を図る為にも諸外国の大学との協定締結に向けて他部署と協力する。 	<p><別科></p> <ol style="list-style-type: none"> ①2019年度用別科パンフレット・ホームページ作成(7-8月) ②関係部署と相談の上、別科入試選考の一連の流れを整備(8-9月) ③別科入試の実施(9-2月) <ul style="list-style-type: none"> 一次募集(募集期間：(8/20-9/14) 二次募集(募集期間：(9/25-11/2) 実施 三次募集(募集期間：(1/15-3/1) ④合格者への連絡と入学手続き(2-3月) ⑤留学説明会・進学説明会への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・韓国での留学説明会(JASSO主催)に参加(8月) ・中国の廈門市・長春・瀋陽・香港などでの留学説明会(長崎留学生支援センター主催)に参加予定(8月と11月) ・福岡の日本語学校での進学説明会(長崎留学生支援センター主催)に参加(9月) 	<p><別科></p> <ul style="list-style-type: none"> ・別科の採算を考えると本学受検を重視 ・IHパートナーズの斡旋、N5レベルでない ・また、モチベーションの低い人もいる。増やすより質を高める ・動機がやすい。工学系の進学ではない ・学部、院への進学レベルで依頼 <ul style="list-style-type: none"> → 要求をペーパーにする ・教科 数学、物理、化学、総合科目を数学と物理を残して、あとは廃止(本学の入試で課していない)

<p>1. 別科からの本学進学者への今後の対応</p> <p>①2017年度別科生の進路：22名中、13名（約60%）が本学に残った。</p> <table border="1" data-bbox="181 264 1003 642"> <tr> <td>全別科生数</td> <td>正規生 22名 + 聴講生 4名（付属高校生）</td> </tr> <tr> <td>留年生数</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>本学学部進学者</td> <td>7名（マネジメント3、機械3、建築1）</td> </tr> <tr> <td>本学大学院進学者</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>専門学校</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>他大学学部研究生</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>短期大学</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>帰国</td> <td>1名</td> </tr> </table>	全別科生数	正規生 22名 + 聴講生 4名（付属高校生）	留年生数	5名	本学学部進学者	7名（マネジメント3、機械3、建築1）	本学大学院進学者	1名	専門学校	4名	他大学学部研究生	3名	短期大学	1名	帰国	1名	<p>②今後の対応</p> <p>これまで同様、先輩学生による本学PR、教員による進路指導、オープンキャンパスへの参加は積極的に実施していく。これに加え、次の（ア）～（ウ）が実施できるよう努力する。</p> <p>（ア）別科入学選考時に、応募者の留学目的を今まで以上にきちんと確認する。 →留学斡旋業者への要望、一般応募の場合は紹介者への確認、応募者本人への面接</p> <p>（イ）本学在学学生だけではなく、本学卒業生で長崎在住の先輩による本学PRの場を設ける。</p> <p>（ウ）別科生を対象とした本学学部の授業見学やものづくり体験授業の実施 →日本語がわからなくても見てわかる・体験できる授業</p>	
全別科生数	正規生 22名 + 聴講生 4名（付属高校生）																	
留年生数	5名																	
本学学部進学者	7名（マネジメント3、機械3、建築1）																	
本学大学院進学者	1名																	
専門学校	4名																	
他大学学部研究生	3名																	
短期大学	1名																	
帰国	1名																	
<p>【知名度向上】</p> <p>①国際交流事業に積極的に関わり、大学の多様化・国際化に貢献する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留学生地域交流プログラムの充実 	<p>①以下の交流活動の実施および更なる充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部日本人学生と留学生の交流活動（随時） ・日見小学校との交流会（後期） ・附属高との交流会（9月、12月、3月） ・造大祭および学外でのスピーチコンテスト等への参加（6月、11月） 																	
<p><附属高校></p> <p>平成31年度からの入学者数は、定員の120名を確保できるよう、具体的な目標を掲げて募集活動を推進する。</p> <p>1 中学校教員へのアピール強化 スポーツだけではなく学習面にも力を入れていることをアピールするため、中学校教員に対する授業見学の機会を設定する。</p> <p>2 強化指定クラブでの生徒数確保</p> <p>① サッカー部 45名～50名 （創新寮の収容能力には配慮が必要）</p> <p>② 野球部 25～30名 （前年度より10名以上の増を目指す）</p> <p>③ バレーボール部 15名</p> <p>3 強化指定クラブ以外の部活動での生徒数確保</p> <p>① NiAScience部（3名程度） 東長崎中の文化クラブ技術部で全国ロボコン優勝をめざして活動している生徒の勧誘。ロボコンに関心がある生徒は、総科大への進学も期待できると思われる。</p> <p>② 柔道部（3～5名） 柔道部には専門の指導者がいることから、毎年数名の有望な選手を確保できれば、県大会等での活躍は期待できるので、新たに特待生としての勧誘を図る。</p> <p>4 近隣の日見中、東長崎中、橋中からの入学者増（7名程度） 今年度の入学生は、日見中 1名、東長崎中 9名、橋中 7名であったが、更なる募集活動等により、近隣3校で合計20名以上を確保したい。近隣中学校とは、入学式、卒業式、体育祭などを通じて関係はできおり、各校1～3名程度の増加を目指す。 サッカー部は、東長崎中と合同練習会や練習試合も行っているため、自宅から通うサッカー部員の入学にも期待したい。</p>	<p><附属高校></p> <p>平成30年度の入学者は98名にとどまり、定員120名との乖離が大きくなったので、定員120名の確保を最大の目標として、募集活動を推進する。</p> <p>1 中学校教員へのアピール強化 10月 中学校教員対象の入試説明会の際に、附属高校の公開授業を実施し、総附の教育内容を知ってもらう。</p> <p>2 強化指定クラブでの生徒数確保</p> <p>3 強化指定クラブ以外の部活動での生徒数確保</p> <p>近年、特別入試（専願）で90名～100名程度を確保しておかないと、特別入試（併願）及び一次、二次入試で30名を確保することは難しい状況となっているため、強化指定クラブ等においては、有望選手を特待生として積極的に勧誘し、目標生徒数の確保を目指す。</p> <p>5月～10月 中学校訪問での総附アピール（校長以下担当職員） 6月～11月 顧問教諭による、県内外の中学校への個別訪問による勧誘活動。 8月 第2回オープンスクール（クラブ体験）参加者への積極的な入部勧誘。</p> <p>4 近隣の日見中、東長崎中、橋中からの入学者増 8月 第2回オープンスクール及び、10月の第3回オープンスクールの開催に合わせ、近隣3校に積極的な案内を行い、参加者数の増加を図る。 9月 体育祭及び、10月文化祭の案内を行い、本校への来校機会の増加を図る。 随時 東長崎中サッカー部員への声掛けを行い、入学へと繋げていきたい。</p>	<p><附属高校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日見中1名は少ない ・日見中との仲は円滑。悪いイメージはない ・全教員で割り振りし、1名2～3校訪問 ・野球が悪かった ・女子生徒の増。ヒップホップダンス ・NiAScience（文化部）特待生の規定がない。 <p>指定強化にして集める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・免除方式から奨学金方式にかえ持ち出しが減った ・授業料（36,000円）にする場合、他校とのイメージはどうか → 就学支援金の説明で理解 ・高校は収容定員の3割増、減で補助金がでない 																